

HPR-West-06

〈スイング〉優勝

大会最終日（5月6日）。

風弱く、10時30分のスタートは延期に。

その後、西の風がそよそよ入り、12時30分にいよいよスタートです。

〈からす〉がスピードにのせてピンエンドから飛び出していきます。

そして、〈スイング〉、〈エスプリ〉と続くきれいなスタートです。

その後、風は左に振れ、〈スイング〉がここでもトップで1上マークを回航。

続けて中島光司オーナーの〈スランジバー〉が回ります。

2015年デザインの〈スランジバー〉。特徴は、やはり引き込み式のプロペラでしょうか。

帆走中は船底にペラが無い、となれば、抵抗はかなり小さくなっているはずですが、総重量は5艇の中でもっとも重く、セールエリアはわずかながら小さめ。ということからか、TCCは1.255に収まっています。

このスペックから考えると、どちらかというが強風向きの艇と言えるのですが、軽風のこの日のレースは好調です。

結局3位に入り、ここまでの雪辱を晴らします。

※ ※

この後、時間切れとなり、日本初のHPRチャンピオンシップは、全3レースで成立しました。

そして、この日も着順1位、修正でもトップとなった〈スイング〉が、このシリーズオールトップで優勝を決めました。

総合2位は、この日2位に入った〈ブラック〉。順位を落としても這い上がってくるのはさすが。

総合3位には、関東の〈エスプリ〉が入りました。

※ ※

優勝した鈴木啓介オーナーの〈スイング〉は、浮いたばかりの新艇です。より軽量の〈ブラック〉や〈エスプリ〉が軽風向けなのに対し、こちらは12ノット以上の風で威力を発揮することのこと。カウンターバウと、潜水艦のようなラウンドしたデッキ形状が目を引きま

す。ここ何年か、オリジナルの日本人クルーで活動していた〈スイング〉チームですが、今回は、メインセールトリマーに Marco Constant、ヘッドセールトリマーに Malcom Parker、バウに Carlos Bo Maywald、そしてタクティシャンには Morgan Larson と、要所要所に4人の外国人プロセラーを起用。

「4人パックで呼んだのが効果的だったと思う」と語る鈴木オーナーですが、前週と同じ新西宮で開催されたコモドアーズカップにもこのメンバーで出場。その前の練習/調整から入れると10日ほど一緒に乗っていることになります。

ピットの早福和彦は、「オリジナルの若いセーラーもどんどん乗り換えて起用し、経験を積ませているのが良い」と、大会での成績もさることながら、日本の若いセーラーが世界のトップセーラーからセーリングを学ぶ機会を与えているメリットを指摘します。「苦手な英語でも、自分から進んでいろいろ質問していきなりするんですよ。こういうのが良い勉強になるんだなあと思って。僕もわざと手伝わずに様子を見ています。」と、鈴木オーナーの活動に感心していました。

確かに、今回、彼ら外国人セーラーに話を伺ったのですが、かなり分かりやすい英語で答えてくれました。彼らは彼らで、日本のセーラーと英語で話すコツを、このレガッタで習得したのかもしれない。

〈スイング〉の皆様、おめでとうございます。

次は8月の関東シリーズとなります。各チーム、次回はどんなパフォーマンスを見せてくれるのでしょうか。

